

水生生物を調べる

《自然-3》

(2020.2)

<本文中の記号について>
【 】：請求記号
< >：資料のある場所
(館内)：館内閲覧のみ

魚類・貝類・甲殻類等の水生生物に関する資料の調べ方をご紹介します。

目次

1. 調べるためのキーワード
2. 図書を探す
3. 魚類を調べる
4. 貝類を調べる
5. そのほかの水生生物を調べる

1. 調べるためのキーワード

図書館の所蔵検索や各種データベースを検索する際に利用するキーワードの例です。

《キーワード》

魚類 or 貝類 or 甲殻類 + 図鑑、辞典、百科「調べたい生物名」「属名」「科名」「学名」 など

2. 図書を探す

○書架を探す

水生生物の資料は、2階公開資料室(公2)の書架にあります。なお、図書館の本は「日本十進分類法(NDC)」で分類された数字の順に並んでいます。

《関連分野の分類記号》※背ラベルの1段目の数字です。

480	動物学
481	一般動物学
484	軟体動物、貝類学
485	節足動物
487	脊椎動物
487.5	魚類

※軟体動物→タコ、イカ、ウミウシ等

※節足動物→エビ、カニ等の甲殻類を含む

クジラ、イルカ等の「哺乳類」に分類される生物については、自然-2「哺乳類・鳥類を調べる」をご覧ください。

【資料がある場所】(2階 公開資料室見取り図)



2階 調査相談室へ

○調査を始める前に

水生生物等の動物の資料は分類(目・科・属等)ごとに編集されることが多く、ほとんどの資料に学名索引が付属しています。図鑑等を調べる前に、以下のような50音順の辞典類で調べたい動物の分類・学名等を確認すると、目的の動物を探しやすくなります。

・『魚介類2.5万名前大辞典』(日外アソシエーツ株式会社/編、出版 2008)【487.5/59】<公2>(館内)

国内の代表的な図鑑・百科事典に掲載されている魚類・貝類およびその他の水生生物を収録。漢字表記・学名・科名・正式名・別名・等を調べることができる。

・『魚類レファレンス事典 2004-2014』

(日外アソシエーツ編集部/編、発行 2015)【487.5/62/004】<公2>(館内)

国内の代表的な図鑑等に掲載されている魚類・貝類およびその他の水生生物の索引。学名・科名等のほか、どの資料の何ページの掲載され、どの図版(カラー・モノクロ・写真・図)があるかがわかる。

・『難読誤読魚介類漢字よみかた辞典』

(日外アソシエーツ/編、出版 2016)【487.5/72】<公2>(館内)

漢字表記された魚介類の名前が読めない場合に役立つ。各種索引により、漢字から読みにとどり着くことができる。

・『魚介類別名辞典』

(日外アソシエーツ/編、出版 2016)【487.5/66】<公2>(館内)

魚類・貝類およびその他の水生生物の一般的な名称と別名を対照して調べることができる辞典。別名から一般的な名称を調べることも、一般的な名称から別名を調べることもできる。

○主な動物図鑑

・『原色動物大図鑑』全4巻

(北隆館 1958)【480.3/10】<公2>(館内)

第2巻に魚網・円口綱、第3巻に軟体動物、第4巻に節足動物を収録している。種類ごとにカラー図と解説がある。

・『世界大博物図鑑』全5巻+別巻2冊

(荒俣宏/著 平凡社)【480.3/26】<公2>(館内)

分類・分布等の基礎情報から、名の由来・博物誌・神話・伝承まで幅広い情報を掲載。水生生物は第2巻「魚類」、別巻2「水生無脊椎動物」に収録されている。

3. 魚類を調べる

・『原色日本海水魚類図鑑』全2巻(蒲原稔治／著、岡村収／著 保育社 1985)【487/108/1～2】〈公2〉(館内)
海水に住む魚720種を収録。各種の形態・分布・生体がわかるほか、1巻には魚類額の総説、2巻には経済上の重要魚類の解説がある。

・『原色魚類大図鑑 新訂』圖鑑編、解説編(阿部宗明／旧版監修 多紀保彦 // [ほか]新訂監修 北隆館 2005)【487/111/1.005～2.005】〈公2〉(館内)
圖鑑編には約4000種の魚類のカラー図と解説を収録。解説編では、圖鑑編の補足のほか、輸入食用魚、CITES対象種、絶滅危惧種、外来魚、毒魚、観賞魚の解説を掲載している。

・『海の魚大図鑑』(石川皓章／著、隔週刊つり情報編集部／編、瀬能宏／監修 日東書院本社 2010)【498.5/65】〈公2〉

日本で釣れる魚約600種を、著者が実際に釣り上げて撮影した写真と共に紹介。種の解説のほか、通称や地域名、分布、大きさ、釣り上げた際の注意点などもわかる。

・『日本の淡水魚 増補改訂』(細谷和海／編・監修、内山りゅう／写真、藤田朝彦、武内啓明、川瀬成吾／解説 山と溪谷社 2019)【487.5/68/019】〈公2〉

日本に生息する淡水魚を網羅的に収録。形態・生態・分布に加え、その種を取り巻く環境、各種レッドリストの категорияや保護の状況、分類学的な課題等の情報もわかる。

・『原色魚類検索図鑑』I、II (阿部宗明／著 北隆館 1989)【484/120/1～2】〈公2〉(館内)

2巻合わせて1644種のカラー図と解説を収録。和名・学名の索引があるほか、外見的特徴からも種を特定することができる。

4. 貝類を調べる

・『日本の貝 1 巻貝』(奥谷喬司／著 学習研究社 2006)【484/27/1】〈公2〉

・『日本の貝 2 二枚貝・陸貝・イカ・タコほか』(奥谷喬司／著 学習研究社 2006)【484/27/2】〈公2〉

巻貝、二枚貝等をカラー写真で紹介した図鑑。日本に生息する種を中心に、市販されている海外種も収録している。巻末に50音索引あり。

・『世界海産貝類大図鑑』(R. T. アボット, S. P. ダンス／著、波部忠重、奥谷喬司／訳 平凡社 1985)【484/19】〈公2〉(館内)

海に住む貝類約4000種を収録。全ての種にカラー写真と学名・命名者・分布・特徴等の解説がついている。巻末には和名や学名から引ける索引があり、見た目からも名前からも探しやすい。

・『原色日本陸産貝類図鑑』(東正雄／著 保育社 1982)【484/17】〈公2〉(館内)

カタツムリやタニシ等の陸に住む貝類約600種カラー写真と解説を収録している。各種の殻の特徴、生態、分布等がわかるほか、陸産貝の総論、採取や飼育の方法も掲載している。

5. そのほかの水生生物を調べる

魚類や貝類に分類されない水生生物を調べたい場合には、以下のような資料が参考となります。

・『原色検索日本海岸動物図鑑 1』(西村三郎／編著 保育社 1992)【481.7/11/1】〈公2〉(館内)

日本の海岸に住む動物のうち、脊椎動物および有殻軟体動物以外のものを掲載した図鑑。カラー写真は少ないが、種ごとに詳細な解説がある。1巻にはサンゴ・クラゲ・イソギンチャク・ウミウシ等の無脊椎動物を掲載している。

・『原色検索日本海岸動物図鑑 2』(西村三郎／編著 保育社 1995)【481.7/11/2】〈公2〉(館内)

上記資料の第2巻。エビ・ヤドカリ・ヒトデ・ナマコ・ホヤ等の節足・毛類・半索・棘皮・脊索動物が掲載されている。

・『日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑』(豊田幸詞／文、関慎太郎／写真、駒井智幸／監修 緑書房 2019)【485.3/17】〈公2〉(館内)

日本の河川や干潟等に生息する淡水性・汽水性のエビ・カニ166種を収録したオールカラーの図鑑。種ごとに形態・分布・生息地の解説があるほか、雌雄の写真が並べて掲載しており、判別に役立つ。

※汽水性＝海水と淡水が入り混じった水のこと

・『新編世界イカ類図鑑』(奥谷喬司／著 東海大学出版部 2015)【484.7/8】〈公2〉(館内)

世界に生息するイカ約500種のイカのうち444種を収録。種ごとにカラー写真もしくは図があるほか、形態の特徴・大きさ・分布等の解説がある。

このような種類別の資料があるほか、以下のような生息場所別の資料もあります。生息場所別の資料は、様々な種類の水生生物をまとめて調べることができます。

・『干潟の絶滅危惧動物図鑑』(日本ベントス学会／編 東海大学出版会 2012)【481.7/111】〈公2〉(館内)

日本の干潟に生息する希少動物・絶滅危惧動物を、651種(貝類462種、節足動物138種、多毛類21種、その他の無脊椎動物30種)を収録。各種の分布・生態等がカラー写真と共に掲載されている。



栃木県立図書館では、さまざまなテーマや課題に関する資料・情報の調べ方、入手方法に関する相談に応じています。お気軽にご相談ください。メール・FAX・電話でもお受けします。

栃木県立図書館 調査相談課

レファレンスサービス担当

火-金 9:00-19:00 土日祝 9:00-17:00
〒320-0027 栃木県宇都宮市塙田1-3-23
URL : <http://www.lib.pref.tochigi.lg.jp>
TEL : 028-622-5112 FAX : 028-624-7855
E-Mail : chousaka@lib.pref.tochigi.lg.jp